

## 入門講座 症例で学ぶ中医学：肺の弁証

大阪市中央区天満橋京町3

木本クリニック院長 木本 裕由紀

肺とは何か

肺・気管・喉・鼻・皮膚・毛・大腸・肺経・大腸経から構成される。  
肺内で清氣と精氣が融合して作られるばかりの正氣を  
新たに生み出された根源的な氣という意味で宗氣と呼ばれる。

肺は気を主る

宣發

血に入ると營氣、肺外をめぐると津氣と呼ばれる。

人体一身の氣(正氣)が、肺の宣發によって全身に布達されることを指している。

肺は宣發と肅降を主る

宣發とは発散の意であり、「肺は皮膚を主る」ので、氣や津液を肺の宣發で全身の皮膚に送る。

肅降とは「肺は五臓の最上部」にあり、肺から他の臓器(全身)に氣や津液を降ろす意味である。

宣發が正常で初めて肅降も正常、宣發が正常でなければ肅降も正常でありえない。

「肺氣失宣」……咳嗽・鼻閉・汗が出やすい・脱毛

「肺氣失降」……喘息(気が下降せず、上逆し肅降できない:肺氣不降)・小便異常・大便不暢

「肺失宣降」……上記両面の症状が現れる

肺は呼吸を主る

自然界から清氣を吸い体内の濁氣を呼出す生理機能を指す。肺氣の下降の特性によって外界から清氣を体内に吸入し、宣發によって体内の濁氣を体外に排出し、さらに肅降の機能によって呼吸道を清潔にして正常な状態に保つ。呼吸は正氣の生成と氣血の運行とも密接な関係があるので、異常になると、咳嗽・胸悶・気喘(呼吸困難)だけでなく、氣の生成や氣血の運行にも影響する。

肺は水道を通調する

肺は、体内の水液循行の道路を疎通して、水液の輸布・排泄を調節する。肺の宣發によって、肺から転輸された水液を全身に輸布とともに、衛氣を体表に宣散して腠理の開闊(開閉)を行うことによって、汗の排泄を調節し、さらに宣降の機能によって、水液循行の道路を疎通している。「肺は水の上源たり」肺の水道通調機能障害では、汗の異常・尿の異常・水腫・「肺水不開」による無尿・尿閉。

肺は治節を主る

肺は宣發肅降によって、呼吸をリズミカルかつ均等に行わせるとともに、血液の運行も規則正しく制御し、両者を協調させている。肺は気の大王で、すべての臓腑経路がその気を受けており、各臓腑・組織・気管の生理機能を管理している。「肺は気を主り、氣調えれば則ち營衛臓腑は治まらざる所なし、ゆえに治節を主る」という。肺は宣降によって、水液の輸布・運行・排泄も管理し、調節している。言い換えると①呼吸と心臓のリズムとの関係、たとえば正常では1回の呼吸で心臓は6回拍動すること。②呼吸と血液の流れとの関係、つまり1回の呼吸での血液の流量との関係。これらが「肺は治節を主る」ことの生理機能である。

肺は百脈(全身をめぐる経脈・十二經脈)を発する

精氣は肺の宣發で諸經に注がれ、臟腑に輸布される。

血液は、運行を心気が主っているが、肺氣による氣の昇降に従って全身を運行する。

肺の志は「憂」である

情志は心が主る。「内經」に「悲憂は心を動かして肺これに応ず」とあるように、

悲憂は肺氣を消耗する。

肺の液は「涕」である

涕とは鼻水である。五臓それぞれに氣化による液があり、肺が正常なら涕を生成して鼻竇を滋潤する。

- 肺が燥を受けると、鼻水は乾く。
- 肺が熱を受けると、鼻水は黄色になる。
- 肺が風を受けると、鼻水が出る(外泄)。
- 肺気が不足すると、鼻水は止まらなくなる。

肺は皮毛を主り、その栄(華)は毛なり

皮毛は一身の体表であり、肺が宣發する精氣によって養われ、腠理が開閉し、汗を排泄し、体温を調節し、外邪から防御する機能を持つ。「太陰(肺)は氣をめぐらし皮毛を温めるものなり。」つまり肺は、宣發によって精氣を体表に輸布して皮毛を温養し、皮毛の栄養や機能は肺の主氣と宣發の機能に基づいている。

肺気が不足すると

- 皮毛を温養できなくなり、衛表不固・開闔失司が生じて汗をかきやすくなったり邪氣を受けやすくなり、甚だしければ皮毛は憔悴枯燥する。
- 逆に、皮毛・腠理は肺が宣發する通路の一つであるので、腠理の開闔の状況が肺の宣發に影響を与える。

肺の竅は、鼻である

「肺氣は鼻に通じ、肺和せば則ち鼻はよく臭香を知るなり」

肺に異常があると

- 嗅覚低下・鼻閉・鼻の乾燥

鼻に異常があると

- 呼吸不利・咳嗽気逆

肺は、声を主る

声が出るのは喉からであり、喉は手太陰肺經に属して肺が主っており、肺氣により

声が出るので、「肺は声を主る」という。肺氣が足りていれば、声は大きくはつきりしている。肺に異常があると、声が弱い・声が嗄れる・声が出ない。

## 病機と治療

### ①咳嗽(図1)

『素問・咳論篇』に「五臟六腑はみな人をして咳せしむ」とあるが、咳を発生する所は肺である。肺は清虚の臟であり、天の清氣を受け入れるが天の邪氣を受け入れず、身体の正気を受け入れるが身体の邪氣を受けず、六淫の邪を外感しても五臟の邪を内受しても、肺は邪を宣散しようとする。宣散できなければ、氣機を通じて駆邪外出する生理的な反応として、必ず上宣が生じる。肺気が上宣すれば、気が上逆し声門を突き上げて咳が現れる。

(弁証)	(治法)	(代表処方)
風寒肺犯	宣肺散寒	杏蘇散
肺熱肺犯	清熱宣肺	桑菊飲
燥邪肺犯	清熱潤燥	桑杏湯
痰湿阻肺	脾氣虛 健脾化痰	二陳平胃湯
	肺氣虛 补肺化痰	人参蛤蚧散
肺陰虛	養陰止咳	沙參麥冬湯
肝經实火	清肝瀉火	黛蛤散合瀉白散
腎陰虛	滋腎潤肺	知柏地黃丸

### 肺の生理機能と病理変化

生理機能	病理変化
宣発肅降を主る	咳嗽・喀痰・喀血・哮喘
声を主る	声嘶(声がかかる)・失音(声が出ない)
鼻を開窓する	鼻塞(鼻づまり)・失嗅(嗅覚障害)

それぞれの症状について、以下に解説する。図中では実線矢印で直接原因を、破線矢印で間接原因を示している。

### ②哮喘(図2)

哮(喘鳴)と喘(呼吸困難)は、肺気が下降せずに上逆するために発生する。腎虚の納氣無力・脾虚の痰湿内生・火熱壅盛・邪氣束肺などのように他臓や六淫に原因がある場合でも、肺気の昇降を失調させて、肺気が下降せずに上逆すると哮喘が現れる。

(弁証)	(治法)	(代表処方)
痰熱壅肺	清熱平喘化痰	麻杏甘石湯
外寒塞肺	宣肺散寒	麻黃湯
飲邪伏肺	外感寒飲	宣肺散寒化飲
	腎陽虛	小青竜湯
肺氣虛	溫腎化飲	真武湯
脾氣虛	益氣斂肺	補肺湯
腎陽虛	健脾化痰	二陳平胃湯
	温腎納氣	黑錫丹

图 1：咳嗽

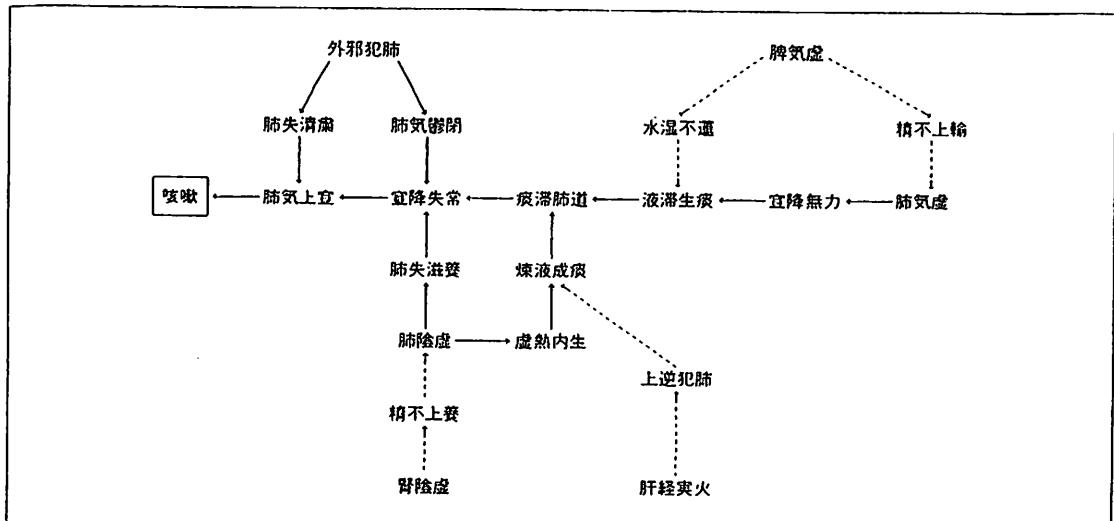
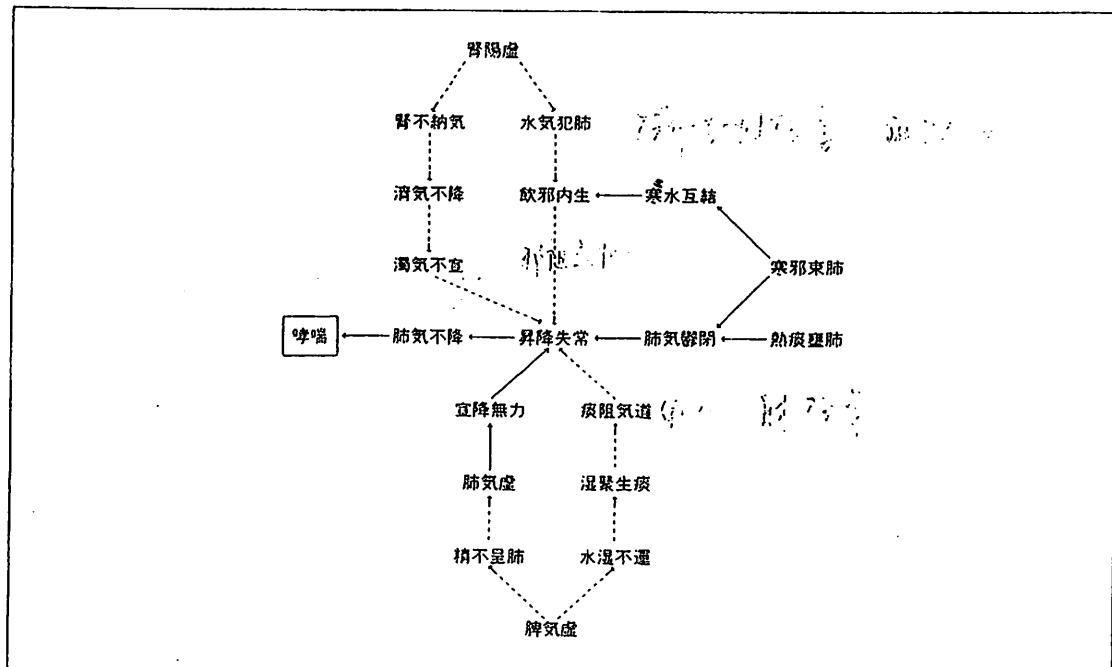


图 2：哮喘



## ①喀痰（図3）

痰は津液が変化して生じるので、痰が発生する原因是肺だけではない。気が湿を運ばなかったり水湿が化さなければ痰が生じ、熱が津液を煎熬したり寒が津液を凝斂しても痰が発生する。肺は貯痰の器で、有形の痰が生じると肺に滞り、肺が体外に排出して気機を通暢しようとするので、喀痰が見られる。

(弁証)	(治法)	(代表処方)
邪熱犯肺	消肺化痰	清金化痰湯
風寒犯肺	宣肺散寒	杏蘇散
肺陰虛	滋陰止咳化痰	補肺阿膠湯
肺氣虛	益氣化痰	補肺湯合三子養親湯
脾氣虛	健脾化痰	二陳湯合三子養親湯

## ④咯血（図4）

出血には虚と実があり、虚には氣不攝血あるいは虛熱傷絡が、実には熱燥邪盛による迫血妄行あるいは瘀血阻絡による血不循經などがある。いったん肺に出血するととどまつて邪になり、肺の清肅機能を妨げるので、肺は外宣して驅邪し咯血を引き起こす。

(弁証)	(治法)	(代表処方)
熱邪壅肺	消瀉肺熱	瀉白散
燥熱傷肺	消燥止血	桑杏湯
肺陰虛	滋陰止血	百合固金湯合十灰散
肝經实火	清肝瀉火	黛蛤散合瀉白散
瘀血阻滯	活血止血	通瘀活血湯加十灰散
氣不攝血	益氣摄血	補中益氣湯

図3：喀痰

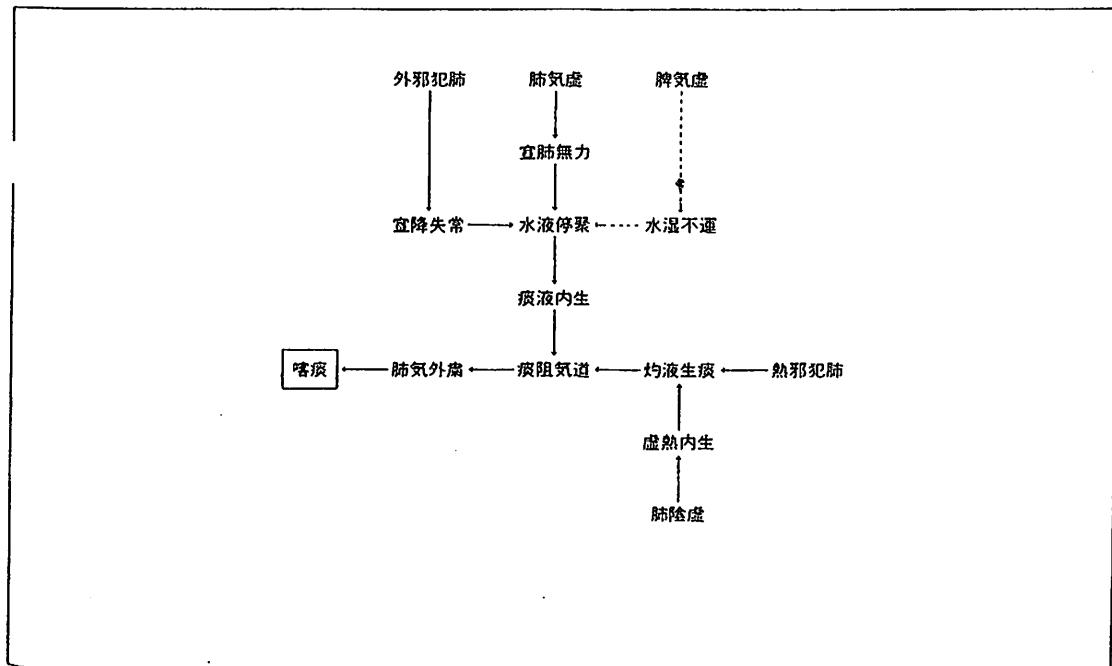
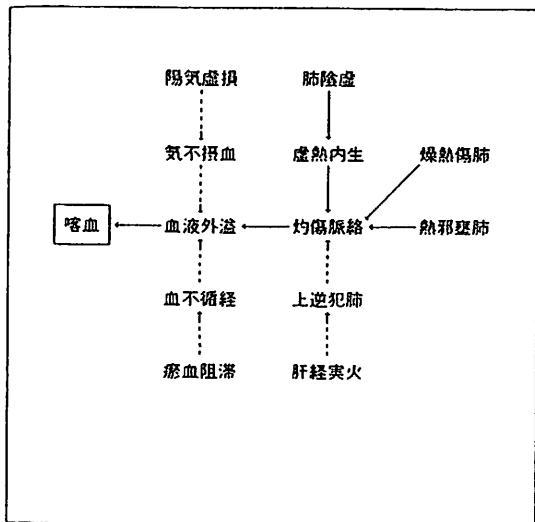


図4：咯血

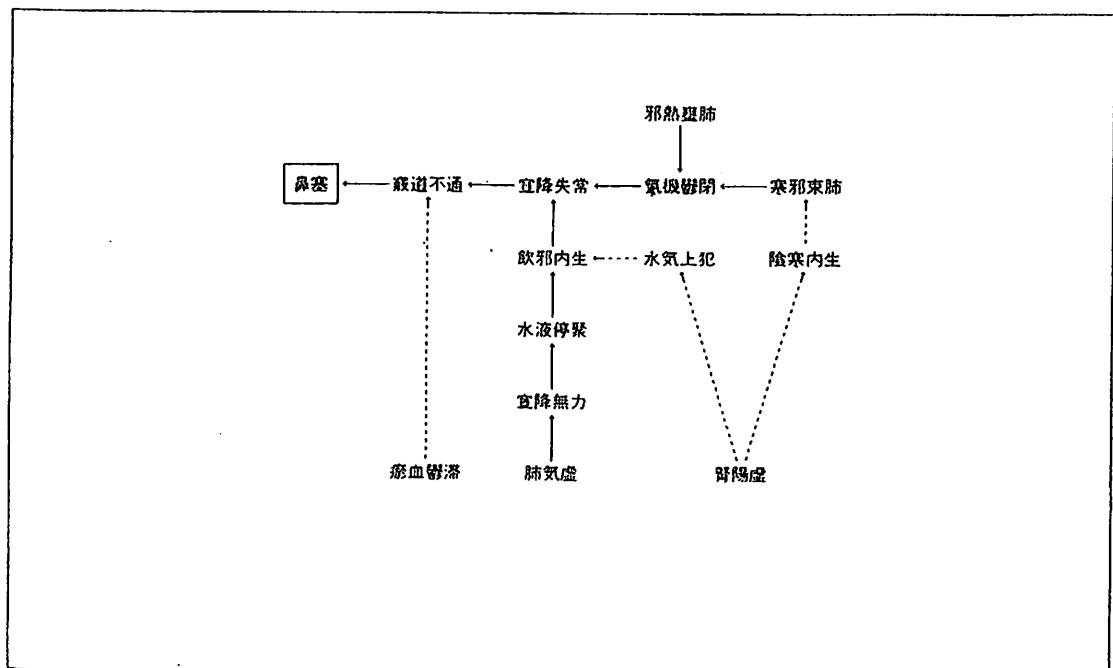


⑤鼻塞 (図5)

鼻は肺の竅であり、肺はこの竅道により天と通じて氣を得て、呼吸を司っている。竅道の通暢は全面的に肺氣の宣發に頼っており、竅道不通の原因は外邪・内傷・虚・实と異なっていても、すべて肺の宣發が失調して竅道が失暢するために生じるのである。

(弁証)	(治法)	(代表処方)
邪熱壅肺	宣肺消熱	桑菊飲
寒邪束肺	宣肺散寒	三拗湯
飲邪內伏 { 肺氣虛 腎陽虛 }	補氣化飲 溫腎化飲	玉屏風散合小青龍湯 真武湯
腎陽虛 (内寒)	溫腎散寒	麻黃附子細辛湯
瘀血鬱滯	活血通竅	通竅活血湯

図5：鼻塞

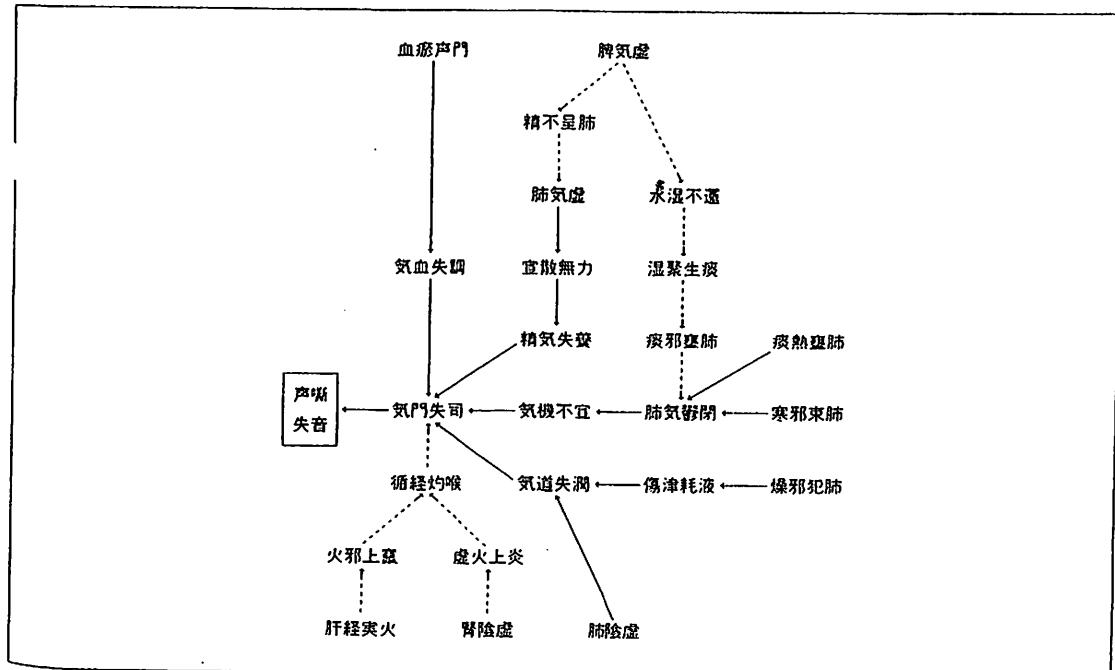


## ⑥ 声嘶・失音 (図6)

声嘶は声がれであり、失音は声が出ないことである。喉は肺の気門であり、気門は肺気が宣散する精氣を得て声を発する。肺金は鍾に似て叩けば鳴るはずであり、叩いても鳴らないのは、実して鳴らないか、破れて鳴らないかである。実して鳴らないとは、邪気が肺を壅ぎ、肺氣の宣散を阻んで精氣が布散されず、気門失養となって声が出なくなることであり、これを「金裏不鳴」という。破れて鳴らないとは、肺の気陰が受損して宣散するものができないか宣散することができず、気門が精氣を得られないために声が出なくなることで、これを「金破不鳴」という。いずれであるかを鑑別しなければならない。

(弁証)	(治法)	(代表処方)
寒邪束肺	宣肺散寒	三拗湯
燥邪犯肺	清熱潤肺	清燥救肺湯
痰熱壅肺	清痰宣肺	麻杏甘石湯
肺腎陰虛	養陰潤肺	百合固金湯 あるいは六味地黃丸を加える
脾肺氣虛	補益肺脾	補中益氣湯
肝經實火	疏肝瀉火	加味逍遙散
瘀血鬱滯	活血化瘀	通竅活血湯

図6：声嘶・失音

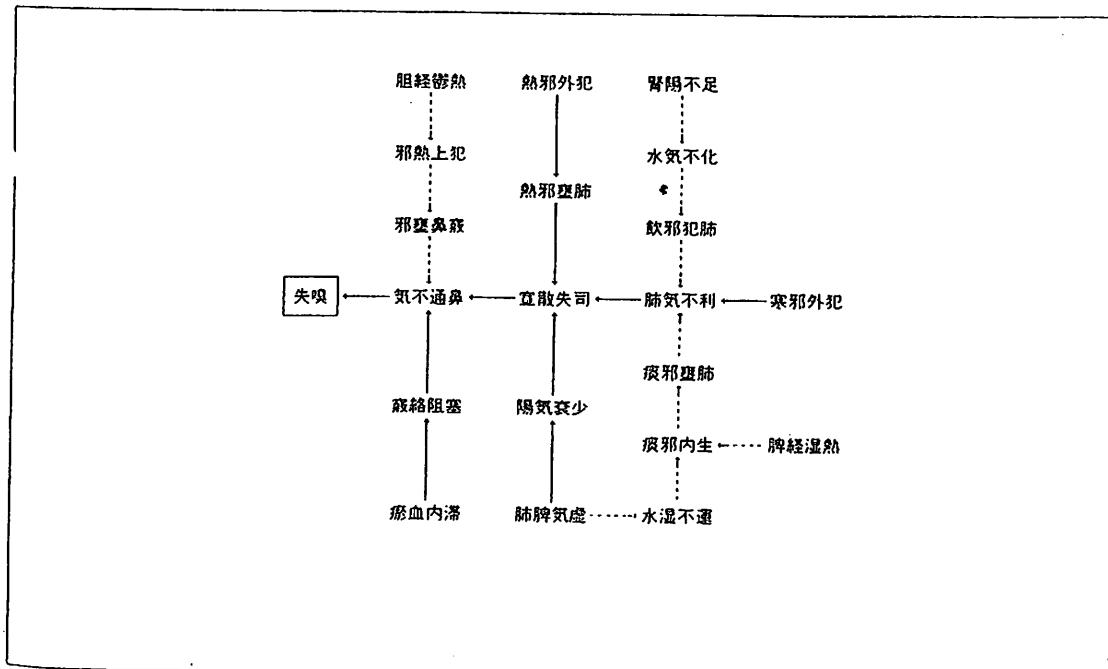


## ⑦失嗅 (図 7)

<sup>123</sup> 失嗅はにおいをほとんどあるいはまったく感じないことがある。香臭を感知するのは鼻であり、その機能は肺気の宣發に全面的に依存しており、肺気が鼻に通じなければ五氣を弁別できない。したがって失嗅は、邪が鼻を阻閉しているか、肺気が鼻に達していないかのいずれかであり、肺失宣散により気が鼻に通じていないことが原因である。

(并証)	(治法)	(代表処方)
寒邪犯肺	散寒通竅	麻黃湯合蒼耳子散
邪熱犯肺	清熱通竅	桑菊飲合蒼耳子散
痰熱壅肺	化痰宣肺	麻杏甘石湯
胆經鬱熱	消瀉胆熱	龍膽瀉肝湯
瘀血內滯	活血通竅	通竅活血湯
脾經湿熱	消熱除濕	黃芩滑石湯
痰濕壅肺	化痰除濕	導痰湯合二陳湯
脾肺氣虛	補益肺脾	補中益氣湯
腎陽不足	溫陽化水	真武湯

図 7 : 失嗅



## 失嗅

香臭を感知するのは鼻であり、その機能は肺気の宣發のよっている。肺気が鼻に通じなければ五氣を弁別できない。したがって失嗅の原因は、肺失宣散で肺気が鼻に通じていないためである。

肺失宣散 → ①邪が鼻を阻閉している

②肺気が鼻に達していない

寒邪犯肺	散寒通竅	麻黃湯合蒼耳子散=葛根湯加川芎辛夷
邪熱犯肺	清熱通竅	桑菊飲合蒼耳子散=荊芥連翹湯+辛夷清肺湯
痰熱壅肺	化痰宣肺	麻杏甘石湯
胆經鬱熱	清瀉痰熱	龍膽瀉肝湯
瘀血內滯	活血通竅	通竅活血湯=通導散+救心+紅參+田七
脾經濕熱	清熱除湿	黃芩滑石湯
痰濕壅肺	化瘀除湿	導痰湯合二陳湯=竹茹溫胆湯+桂枝茯苓丸
脾肺氣虛	補益脾肺	補中益氣湯
腎陽虛	溫陽化水	真武湯

間質性肺炎 は、虚実兼雜が多い。

咳(陰虛のこゑも)  
はえ  
咳(陰虛のこゑも)→清肺湯+麦門冬湯

咳(陰虛のこゑも)→補氣, 補陽などを

薄い鼻水でときどき黄色・温肺去飲 ⇒ 小青竜湯 + 人參湯  
 痰熱 → 時に黄色鼻汁 ⇒ 清肺湯 E 短期間便  
 痰熱 → 竹節温胆湯 < 麻杏石湯

声が硬い = 手軟性ない ← 血・津液の失養 ← 喘息少痰 … 温邪

声が持続的 ← 肺氣虛

声が嗄れる = 津液の問題多い ← 气虚 + 津液の虚 ⇒ 咳  
 肺失潤 + 津液の虚 ⇒ 哽

熱  
寒熱  
痰熱

## 花粉症

風熱 (鼻小片, 目痒, 目赤, 咽乾~咽痛) 紅數 古風 滋潤   
 犯肺 稍微, 鼻塞, 銀翫散  
 肺の寒飲 + 停肺 (素体) 肺陽虛 (裏風寒, 水精虧) 淡弱 清肺化痰   
 (素体) 肺氣虛 (鼻痒, 咳嗽, 鼻塞) 銀翫散 < 雪根茶  
 銀翫散 < 小青竜湯

69才女性 花粉症 陽亢, 滯邪, 風熱犯肺型 茉莉散

4~6月 目痒, 鼻痒, 鼻水, 鼻涕一并可利せず干咳中弱, 鼻塞

鼻中隔偏倚, 鼻過敏状態にて何がいつでも感じてのめりこむ, 以上も出世茶

(柿中苦3g + 甘草3g + 麻黄附子細辛3g + 胃子1-2g)

## 肺の生理機能と病理変化

生理機能	病 理 変 化			
宣発肅降を主る	咳嗽	喀痰	咯血	哮喘
声を主る	声が嗄れる	失声	声が弱い	
鼻に開闢する	鼻塞(鼻閉)	臭いがわからない(嗅覚障害)		

### 症例1. 花粉症 49才女性 157cm、49kg。

関節リウマチの患者。ステロイドを服用しているのをやめたい。また漢方で治ると聞いて来院。ステロイドも中止でき、痛まず一人で来院できるようになった。花粉症は、鼻閉タイプ(鼻水なし)。風邪をひくと咽が痛くなることが多い。中医学的所見:足が冷え夏に冷房は苦手。冷やしたいほど顔がのぼせ、頭がほてる。食欲正常。便通1日1回。日中尿の色は薄い。舌質暗紅、苔薄白。治療:麻黄附子細辛湯 5g + 附子 1.5g。1ヶ月後、花粉症もよくなり、それまでの冷えるとリウマチが悪化していたのがなくなった。2ヶ月経ち花粉症は一切出なくなった。鼻水も出ない。風邪もひかなくなった。温肺・温腎・宣発に麻黄附子細辛湯を、附子はその人の冷えが丁度とれる量である。

### 症例2. 花粉症 42才女性 153cm 60kg

毎年春と秋の花粉症の時期に、透明な鼻水がよく出るが、今春、数日前からくしゃみと涙目と鼻水がひどくなり来院。中医学的所見:疲れやすい。冷え症というほどではないが冷房は苦手。冬に唇がひび割れる。手は温かい。頭重感がある。身体が重い。足がむくむ。食欲正常。脂っこいものは苦手。便通1回/日。朝起きるのが辛い。日中の尿は薄い色。日光過敏症がある。皮膚は乾燥しやすい。生理前後に外陰部がかゆい。月経痛は冷や汗が出るくらいひどい。舌暗紅、やや乾燥、苔薄白黄。脈弦重按無力。治療:小青竜湯5g 麻黄附子細辛湯4g 荊芥連翹湯3g 附子1g。鼻水がすうっと落ちることもなく、目も楽になり、杉花粉の飛散時期だけとりあえず標治できた。次に今後のために本治を始めた。荆芥連翹湯は、花粉は風邪か風熱の邪であり、去邪の目的で用いた。

### 症例3. 花粉症 51才男性 162cm 64kg

15年前から花粉症があり、夜間は鼻閉で寝苦しく口で呼吸するので、口の乾燥も強い。さらにアレルギー性結膜炎で目は眼脂がひどくて、朝起きても目が開けられない程くっついている。球結膜は赤く濁っている。目全体が痒く取り外して洗いたいほどである。眼科にも行ったが弱いステロイドの点眼薬と抗ヒスタミン剤をもらうも良くならず、また多くの漢方医にも相談したがよくならなかった。その後通年性の花粉症になり、また年々症状が強くなっているので来院した。中医学的所見:熱がり症で汗かき。仕事は多忙で人間関係に苦労が多く、毎日ストレスで内心はいらいらして怒りっぽい。食欲旺盛。尿は出にくいことがある。便通は1日1行で、やや硬い。血液検査で脂肪肝と慢性活動性肝炎を呈している。全身に蕁麻疹もよく出現し、とくに夜間は痒くて寝られないことが多い。舌紅、苔黃膩。脈弦滑。治療:はじめに標治として越婢加朮湯(必要時+荊芥連翹湯+竜胆瀉肝湯)で、鼻も通り目もきれいになり花粉症は治まった。体质は肝腎陰虚の上にストレスで肝鬱化熱も加わり、陽亢の熱(浮陽)で花粉症の症状がどんどん悪化していったのであろう。治療は滋陰降火湯で腎陰虚内熱を治療し、柴胡加竜骨牡蠣湯で疏肝解鬱・清熱しながら、陽気を降ろし、さらに安神鎮静をした。また脂肪肝で肥満体质の上にストレスから肝熱に痰湿内生が加わり、肝胆湿熱で

目に眼脂多く、湿熱下注で尿が黄色で出にくいなどの症状を引き起こしているので竜胆瀉肝湯を加味するなどして、越婢加朮湯の使用量も減っていった。荊芥連翹湯は花粉量が多くて眼症状が強い時に用いた。

花粉症	舌	脈	弁証	治法	方剤
1 热証型 目が痒い・目の乾燥・目充血 咽痛・咽乾・鼻塞・鼻汁粘稠	紅	数	風熱犯肺	疏風清熱	荊芥連翹湯 + 越婢加朮湯 または (+ 麻杏甘石湯)
2 寒証型 惡風寒・鼻塞・水様鼻汁 鼻が痒い・くしゃみ	淡	弱	外寒風寒 寒飲停肺	疏風散寒 温肺化飲	小青竜湯 麻黃附子細辛湯

#### 症例 4. 喘息 34 才女性 155cm 44kg

5 年前より喘息があり、咳き込みが激しく肋骨に何度もひびが入ったことがある。それ以後、フルタインドやセレベントの吸入をしている。夏の日中に冷房の中に少し長くいると、就寝の頃や寝ている途中に、鼻水・涙・胃内容物を吐くほどの咳き込みが生じる。中医学的所見：身体の寒熱は普通で足が冷える。手がむくむ。両こめかみが張ったように感じ頭が重く感じる。後頸部が凝る。いつも首筋から頭にかけて少し痛む。目の乾燥がある。痰は少なく白色ときに黄色。夜間眠れないほどの咳込みがある。腰痛症持ち。温かいものを飲む。食欲正常。食べると腹が張ることがある。モチやモチ米を食べると数分ですべて嘔吐する(反胃)。便通は 2 日に 1 回で便やや硬く残便感がある。胃にもたれるものを少しでも食べると下痢をする。背中の皮膚が乾燥し粉をふく。悩みやストレスが強い。月経周期は 31~33 日毎。帯下は時に黄色粘稠で外陰部が痒いときもある。疲れると頻尿・残尿などになり膀胱炎になることがある。ブタクサ・ヨモギ・イネのアレルギーがある。運動会で走ると、咳き込んでしゃべれなくなる。冬の夕方から夜中 3 時にかけて突然咳き込んで目が覚める。舌質淡、胖大、苔薄白。脈沈細重按無力。治療：麻黃附子細辛湯 6g 六君子湯 6g 附子 3g 処方。咳き込み激しい時に、麦門冬湯 3g 茄葉甘草湯 2.5g を服用。喘息は内服を始めた翌日から、体が温かく感じるようになり、朝夕のフルタインドやセレベントの吸入はなくても過ごせるようになった。たまに短い咳で痰がからんでも痰を出すと治まる。便通は正常になった。元気になり、子供と一緒に走れるようになった。Peak Flow が 200 から 400 以上になった。この患者さんは、陽虚内寒が強い上に、住環境が岐阜県と三重県の境にあり、夕方から朝までの冷え込みは非常に甚だしく、気虚もあって外感寒邪の襲来を受けやすいうことから喘息を起こしている。つまり、肺陽氣虛に寒邪犯肺し、脾氣虛から痰飲内生し肺失宣降を起こして喘息発作が生じている。温肺・宣發・温腎の麻黃附子細辛湯と腎陽虛内寒に対し附子を配し、痰湿内生の源である脾虛と痰湿に対し、補氣健脾・理氣化痰の六君子湯を用いて改善を見た。また春秋の乾燥期に咳喘息を生じるのは、燥邪犯肺であり、生津益胃・下氣降逆・止咳化痰の麦門冬湯と、咳き込みの急を緩め、酸甘化陰の芍藥甘草湯を併用して作用を増強した。餅を食べて嘔吐することはない。胃内が痰飲内生し嘔吐・反胃が生じている。

**喘息**

1 痰熱壅肺	清熱平喘化痰	麻杏甘石湯
2 外寒束肺	宣肺散寒	麻黃湯
3 飲邪伏肺+外感寒邪寒飲	宣肺散寒化飲	小青竜湯
4 飲邪伏肺+腎陽虛	溫腎化飲	真武湯
5 肺氣虛	益氣斂肺	補中益氣湯
6 脾氣虛	健脾化痰	六君子湯
7 腎陽虛	溫腎納氣	八味丸+人參湯 (+參蘇飲)

**咳嗽**

1 風寒犯肺	宣肺散寒	麻黃附子細辛湯+麥門冬湯
2 風熱犯肺	清熱宣肺	荊芥連翹湯
3 燥熱犯肺	清熱潤燥	清肺湯
4 痰濕阻肺・脾氣虛	健脾化痰	六君子湯 (補中益氣湯) +十二陳湯
5 痰濕阻肺・肺氣虛	補肺化痰	六君子湯 (補中益氣湯) +十二陳湯
6 肺陰虛	養陰止咳	麥門冬湯+六君子湯
7 肝經實火	清肝瀉火	麥門冬湯+竜胆瀉肝湯
8 腎陰虛	滋腎清熱	滋陰降火湯

**症例 5. 慢性副鼻腔炎の急性憎悪 46才男性 170cm 50kg**

16年前に急性副鼻腔炎で半年入院をし、以後は鼻や目の周りや前頭部に脹痛が時々あった。1ヶ月前に激痛に耐えられず、耳鼻科を受診し手術しか治せないとと言われ、手術を受けた。しかし、術後3週間もしないうちから症状再燃。はじめ両目のまわりと両頬が脹痛し、ついで両後頸部が脹痛し、涙が流出し、最後は両側頭部が圧迫されるように激しく頭痛して苦しい。鎮痛剤を1日4錠では足りないが我慢している。日中も仕事はできず、夜間は寝られないほどになり来院。仕事はコンピューターのシステムを担当し、かなりきつくストレスが多い。中医学的所見：冷房の中で寝られない。ひじょうに疲れやすい。肩や背中が石のように凝り毎日マッサージを受けている。口渴強く冷たいものを3~4L飲んでいる。16年前から臭いがわからない。食欲ふつう。辛いものや温かいものは大汗をかく。便1日1行。腰は弱い。舌淡紅、乾燥、苔薄黄。脈弦重按無力。治療：補中益氣湯5g 麻杏甘石湯5g 桂枝茯苓丸5gを処方。服用3日目から薄皮をはぐように痛みは和らぎ、鎮痛剤は不要になった。肝鬱化熱(肝熱)が胃熱と陽亢をきたし、脾氣虛による痰湿内生が結びつき、副鼻腔で痰熱(後鼻漏)となって閉塞している。素体は陽虚だが永年のストレスから陰陽両虚になっているが、今は標治で痛みを急いで取り除いた。痰湿内生の原因と補氣の目的で補中益氣湯を、宣発と清肺熱を麻杏甘石湯で、長期にわたる鼻閉は瘀血鬱滯と考えて桂枝茯苓丸を用いて改善。

**症例 6. 鼻閉 21才男性 170cm 75kg**

10年以上前より、アレルギー性鼻炎があり、今は冬にくしゃみをしたときの少量の鼻水が出る以外症状はないが、一日中すべて鼻詰まりで苦しく、耳鼻科で治療を受けるも効果はない。吸入を1

日10回以上使用しているが、すぐ鼻閉し口呼吸となる。中医学的所見：身体は熱がりで手足のほてりがある。全身の汗かき。食欲正常。便通1日1回の普通便。尿は異常なし。舌質紅、乾燥、苔黄膩、舌下瘀がある。脈浮滑。治療：麻杏甘石湯 5g 辛夷清肺湯 3g 桂枝茯苓丸 2g 半夏瀉心湯 2g 滋陰至宝湯 3g。2週間後、鼻閉はよくなった。「鼻が通る日常は夢のようです」と嬉しそうに言われた。吸入器の回数も減り日中は3回になった。数ヵ月後、朝に鼻の吸入は不要になった。1年間服用続けて治癒した。まず陰虛内熱の体質に滋陰至宝湯。鼻は肺の竅であり、この鼻閉は肺熱と瘀血鬱滯があるので、麻杏甘石湯で清肺熱・宣發し、辛夷清肺湯で清熱潤肺化瘀・通竅し、血瘀に桂枝茯苓丸を用いた。甘い物が好物でよく摂り黄膩苔と関係があり半夏瀉心湯を用いた。

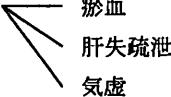
鼻閉（鼻塞）		
1 邪熱犯肺	宣肺清熱	荊芥連翹湯
2 寒邪犯肺	宣肺散寒	麻黃附子細辛湯（麻黃湯）
3 肺氣虛で飲邪内伏	補氣化飲	桂枝湯+補中益氣湯+小青竜湯
4 脾陽虛で飲邪内伏	溫腎化飲	真武湯
5 脾陽虛（内寒）	溫腎散寒	麻黃附子細辛湯+附子
6 瘀血鬱滯	活血通竅	桂枝茯苓丸+（略）.....

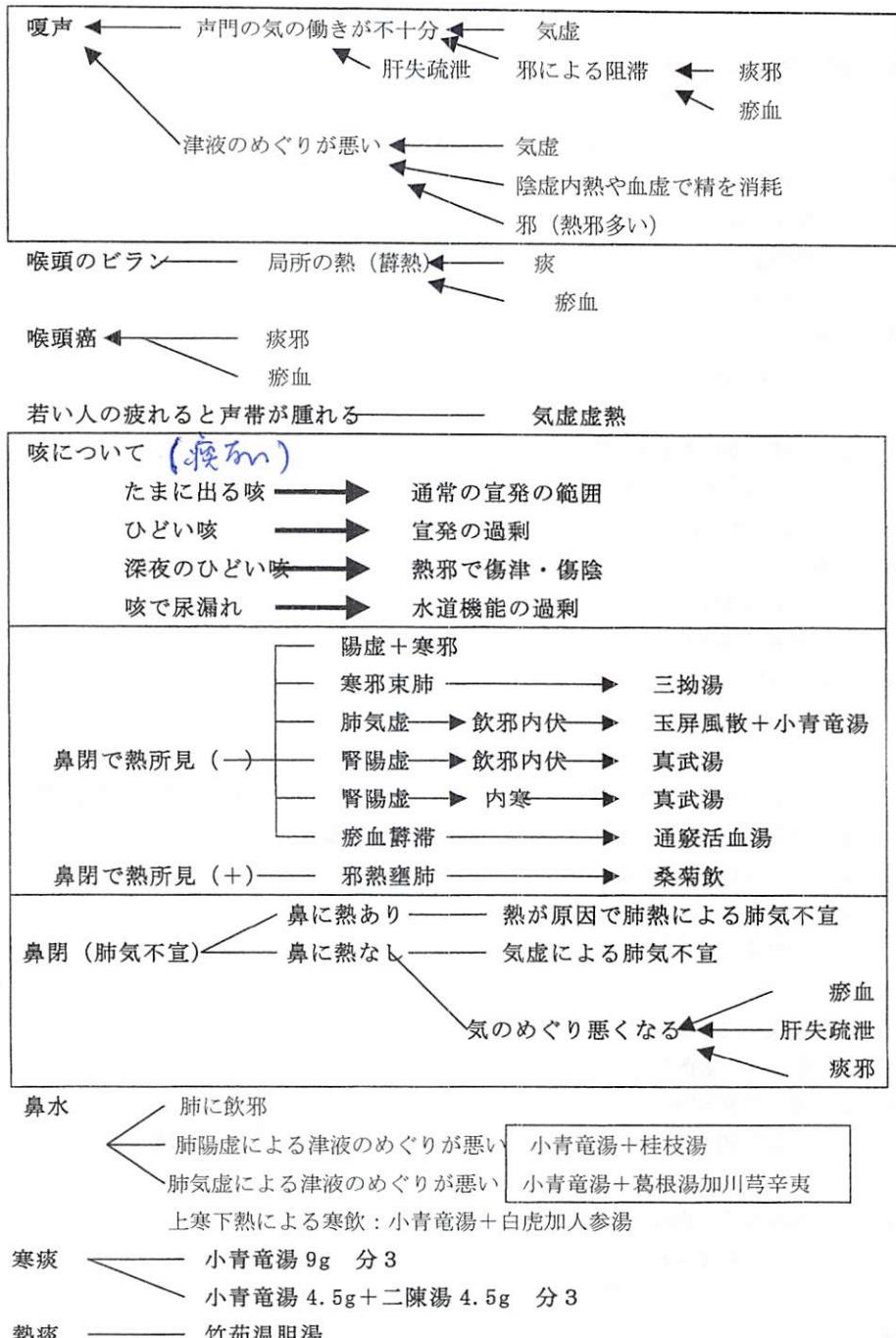
#### 症例 7. インフルエンザ 32才女性 155cm 52kg

前日の夜に終電まで仕事して帰り寝た。朝起きて悪寒強く、頭が割れそうに痛くて体中痛く、腰碎け状態で食欲もない。痰は白く熱は39.5℃。インフルエンザと診断され漢方治療を希望して来院。中医学的所見：体は疲れやすく冷え症でカゼを引きやすい。脈浮緊。舌淡紅、苔薄白。治療：葛根湯 7.5g に、食欲の低下は裏にはいっているので小柴胡湯 7.5g を加えて処方。夕方に1回分を服用するも2時間経っても何にも反応がなかった。そこで2回分を服用して寝たところ、翌朝37℃で痰は切れやすくなり、発熱も昼前までに平熱に下がった。食欲も出て他の症状も消え治癒した。

風邪（インフルエンザを含む感冒）		苔	脈	弁証	治法	方剤
1 傷風	悪風寒・頭痛・鼻塞 水様鼻汁・自汗	薄白	浮緩弱	風寒表虛	扶正解表	桂枝湯 參蘇飲
2 風寒	悪風寒・頭痛・身痛 関節痛・無汗	薄白	浮緊	風寒表實	辛溫解表	麻黃湯 葛根湯
3 風熱 (衛分証)	発熱・微惡風寒・頭痛 咽痛紅腫・口乾	薄黃 舌尖紅	浮數	風熱犯衛	辛涼解表	荊芥連翹湯
風熱	上記+咳嗽強い	同上	同上	同上	同上	+麻杏甘石湯
4 風湿	悪風・頭痛・頭重 身重・肢體疼痛	膩	濡	風濕犯衛	去風燥湿	桂枝加朮附湯 麻杏苡甘湯
5 風燥	悪風或は発熱 目口鼻の乾燥・空咳 (乾燥)	乏津	浮	風燥犯衛	去風潤燥 +桔梗湯	麥門冬湯
6 傷暑 (気分証)	高熱・大汗・悪熱 強い口渴・心煩	膩微黃	浮滑數	暑熱犯衛	清解暑熱	白虎加人參湯

## 肺の弁証

- 肺炎で痰なし  

  - 瘀血
  - 肝失疏泄
  - 氣虛
- 大きく息が吸えない、小さくしか息が吸えない
  1. 痰邪、飲邪
  2. 肺氣虚
- 胸水：飲邪
- 空咳
  1. 氣虚による肺の宣發不足
  2. 胸水による肺の宣發不足で空咳
  3. 陰虚・虛熱による傷津
  4. 蔽熱(実熱)による傷津
- 起座呼吸：飲邪による宣發肅降不足
- 胸膜炎
  1. 热が強ければ、肺熱
  2. 飲邪 (.胸水)
- 宣發の治療
  1. 热なれば、消肺湯
  2. 少少熱があれば、麻杏甘石湯が強い
  3. 飲邪あって、三焦を通利するのは、五苓散、熱あれば、五淋散のほうが清熱強い
  4. 肺の飲邪をとる生薬は、冬瓜仁、冬瓜皮、玉米鬚
  5. 痰があれば、竹茹温胆湯
- 邪による肺の宣發不足による通便薬  
調胃承氣湯がよい
- コロコロ便と肺
  1. 肺気が通じなくて大腸でも降ろせない
  2. 肺から水を散布できないため、便硬くなる
- 両下肢の浮腫と肺  
肺気が詰まっていると、治療は、肺気を宣發し、降氣して、浮腫の原因としての三焦の水道の治療もする。
- 白い痰が多く、咯出すると楽になる  
痰湿阻滯 → 半夏瀉心湯+二陳湯  
→ 半夏厚朴湯+二陳湯
- 咳すると嘔吐する ————— 中焦に痰湿あり



**声帯小結** : 1 痰濁凝結 2 心肺鬱熱 3 気血瘀阻

### 1 痰濁凝結による声帯の小結節

- 症状：①声が沈みすっきりせず、濁り暗く、甚だしいと嗄声となる。  
②声帯に粘稠な白い痰が付着、小結節は白か灰白色、或は声帯が肥厚、閉合不良  
③喉間に痰が塞がったようになりすっきりせず、咳嗽し喀出する痰は白く粘稠で量が多い、口中粘膩、納呆便溏、白帶量多い、苔白或は白膩脈沈弦或は緩滑。

病機：①痰濁内阻、上部の喉間を犯し、声帯に凝結する。痰湿の盛んであれば声帯は肥厚し、閉じて密でない。  
②痰が声帯に結集すると、閉合を阻み、声音は沈み嗄声となる。  
③痰濁が喉に滞ると、気機不利から喉間に痰が塞がったようになりすっきりしない。  
④痰湿犯肺、肺失宣肅：胸悶咳嗽、喀痰は白く粘稠で量が多い。  
⑤痰湿困脾（損傷脾陽）：納呆便溏、口中粘膩。  
⑥痰湿下注：多量の白色帶下。

治則：滌痰化湿・散結開音

滌痰化湿・散結：天南星・半夏・僵蚕 行氣・消痰：全瓜蒌・枳実・陳皮

運脾化湿（痰の源を絶つ）：茯苓・甘草 散結利咽開音：僵蚕+甘草+桔梗(利咽去痰)  
加減

1. 痰濁が比較的盛んであれば、声帯の小結節は白くて大きく、嗄声はややひどい。  
半夏・僵蚕・陳皮を重用し、さらに貝母・牡蠣・海浮石の化痰・散結の力を借りる。
2. 声帯の小結節がなかなか小さくならず、身体が元気盛んな場合。  
去甘草、加昆布・海藻で軟堅散結する。
3. 痰阻喉間、悶脹不爽する場合、  
加烏梅・蘇葉で行氣化痰利喉する。
4. 痰濁中阻、納呆腹脹、口中粘膩する場合、  
加佩蘭・白朮・麥芽で化湿運脾する。
5. もし声帯や小結節が灰色で暗であれば、痰濁挾瘀、痰瘀互阻である。  
加郁金・莪朢・桃仁・紅花で活血化瘀散結する。
6. もし痰湿久滯、損傷脾氣、脾虛痰阻；倦怠乏力、頭暉頭重、嗄声、高音が出ない、なかなか癒えない、手術後も嗄声が戻らないか再発する、舌淡胖；健脾化痰散結。  
補中益氣湯合二陳湯加菖蒲・僵蚕・荊子（利咽理氣）
7. 痰湿が長期化すると、腎氣を損傷、腎虛痰結；嗄声、声が出ない、手術後も声が元に戻らない、膝や腰が弱い、元気がない、頭暉耳鳴、小便清澄、脈沈弱無力、温補腎氣・化痰散結：滋腎湯加減

**症例 鼻閉 21才 男性 170cm 75kg**

10年以上前より、アレルギー性鼻炎があり、今は冬にくしゃみをしたときの少量の鼻水が出る以外症状はないが、一日中すべて鼻閉していて苦しく、耳鼻科で治療を受けるも効果はない。吸入器で1日10回以上使用して、鼻閉をやわらげているが、すぐ鼻閉し口呼吸となる。

身体は熱がり、手足のほてり、全身の汗かき、食欲正常。便通1日1回の普通便、尿は異常なし。舌質紅、乾燥、苔黄膩、舌下瘀、脈浮滑有力

麻杏甘石湯 6g 辛夷清肺湯 3g 桂枝茯苓丸 3g 半夏瀉心湯 3g 滋陰至宝湯 3g

H17.12.22 鼻閉はよくなつた。「鼻が通る日常は夢のようです。」吸入器の回数が減り日中は3回になった。朝にスプレーしないでも鼻が通っていた。注意をうけた肉食とコーヒーの飲みすぎをやめて、1.5kg体重が減った。

H18. 1.12 舌質紅、脹大、歯痕、苔黄膩、舌下瘀、脈浮滑有力、便硬～軟1日1行

麻杏甘石湯 5g 辛夷清肺湯 2g 通導散 2g 滋陰至宝湯 2g 茵陳五苓散 2g 四逆散 2g

H18. 1.26 手足冷たくなりがち。尿も便も調子よい。鼻は1日1回スプレーするかしないまでになり調子がよい。舌質やや紅、歯痕、苔白膩。

・ · · · · 略 · · · ·

H18. 8. 1 手足の煩熱が気になり、エアコンを強くしたがダメ。

夏場はエアコンが切れたら寝られない。鼻閉は1日中通っている。気になるので、1日1回だけ吸入をしてしまう。2ヶ月前より、TG高く、GOT・GPTは2倍のため、脂肪肝と言われた。→72kg

口渴が強く、水分を獲り過ぎると、下痢をしやすい。3回／日

舌質淡紅～紅、苔黄。脈弦緩有力

1) 麻杏甘石湯 5g 辛夷清肺湯 3g 桂枝茯苓丸 3g 茵陳五苓散 4g

2) 三物黄芩湯 7.5g

H18. 8. 28 体温は下がっているので、鼻の通りはよいが、朝に1回／日スプレーをしている。2～3分後に黄色のかたまりが出る。(咽の奥に鼻汁が流れる)夜は寝やすい。(手足がほてらないので)三物黄芩湯を飲むのを(2回／日)切らすと、大分違う。

舌質紅 苔黄

1) 8/1と同じ

**症例 関節リウマチ・(花粉症) 49才、女性。157cm、49kg。**

今まで肩こりを知らなかったのが、2週間前より肩こり(左>右)・首の周りのこりがあつて、背中も少し張る感じがある。1週間前より頭皮の下がピリピリし、痛がゆい。左の肩こりの場所を木で押していると、突然ボコッと膨れて、それが自然に消えるのに2日かかる。また知らぬうちにミミズ腫れやフニャフニヤの軟らかいたんこぶが出現したり、消えたりする。土日の夕方になることが多い。その場所が移動性。(右肩→後頭部→頭頂部)物に触れると、指先に何か棘でもあるような痛い感じがする。20年前から関節リウマチになり、左肘→右膝(軽い)、左手首→右手首→。R F(+)。抗核抗体(+)。朝の強張り(-)。疲れると手首に違和感がある。手首は変形している。*ずっと無月経になつてゐる。皮疹と見えてます。*

足が冷え夏に冷房は苦手。冷やしたいほど顔がのぼせ、頭がほてる。疲れやすい。食欲正常。便通1回。日中尿が薄い。低血圧。怖がり。血圧 100/60~70 脈 60~70/分→当院では脈100(緊張↑)。舌質暗紅、苔薄白。

H18.11.28 柴胡桂枝湯 3g 葛根湯 3g 桂芍知母湯 4g 補中益氣湯 5g 柴胡加竜骨牡蠣湯 1g  
附子 1.5g

H18.12.5 11/28 1服でムカついて気分が悪くなった。脱力感でお尻から下がだるい。

身体はほてり、手足が冷たい。嘔吐が1晩あった。下痢は続いている。2日前より食事を摂っている。頭頂部がポコポコ盛り上がって動くことはなくなった。手先を触っても痛くない。寒い所から暖かい所に入ると、カッとフワッと顔がむくむような風船が膨らむような感じがしたのも、なくなった。身体がすっきりとしてきて、楽になった。疲れてバタンキューでもなくなった。

1) 11/28 同じ

H19.1.16 元気に過ごした。ずっと生理がなかつたのが、1/12より生理が~~不~~通に始まって、身体がスッキリした。頭や体中のボコボコしたものも治っている。布団の中で、朝方にじんわり汗をかくようになった。リウマチとはわからない位に日常生活は十分できるようになった。

花粉症は、鼻閉タイプ(鼻水なし)。風邪をひくと咽が痛い→麻黄附子細辛湯

1) 11/28 同じ

H19.2.19 冷えるとリウマチが悪化していたのがなくなった。跪くも痛くない。リウマチは大丈夫。花粉症も大丈夫。1・2月とキッヂリ生理がある。今年は皮膚がかゆくなる事もない。舌質淡紅、脹大、苔薄白。脈浮弦。

H19.3.16 花粉症は一切出なくなった。鼻水も出ない。風邪もひかなくなつた。

柴胡桂枝湯 3g 葛根湯 3g 桂芍知母湯 4g 補中益氣湯 5g 柴胡加竜骨牡蠣湯 1g 附子 2.5g

**症例 喘息・掌蹠膿瘍症 34才女性。155cm、44kg。**

2年前から、手指の痒みを伴う小湿疹が出現し、痒くてかきつぶすと、水・汁が出る。あちこち切れて痛い。5年前より喘息があり、検査ではアレルギーは認めなかった。咳き込みが激しく肋骨に何度もひびが入ったことがある。それ以後、フルタイド・セレベントの吸入をしている。左先天性股関節脱臼があり、長く立つと少し痛い。第4.5腰椎ヘルニア。

身体の寒熱は普通で足が冷える。手がむくむ。両こめかみが張ったように感じたり重く感じる。後頸部が凝る。いつも首筋から頭にかけて少し痛む。目の乾燥。痰は少なく黄色。夜間眠れないほどの咳込みがある。腰痛症。冷たいものを飲むがどちらかと言うと温かいものを飲む。食欲正常。食べると腹が張ることがある、モチやモチ米を少しでも食べると数分ですべて嘔吐する(反胃)。便通は2日に1回で便やや硬く残便感がある。背中の皮膚が乾燥し粉をふく。手指は夜間かゆい。悩みやストレスが強い。月経周期31~33日毎、帶下は時に黄色粘稠で外陰部が痒いときもある。疲れると頻尿や残尿となり、膀胱炎になることがある。

フルタイト・セレベントを朝夕1回ずつ吸入する。手の方は少しよいが、たまにかゆくなる。ガサガサしている。

H19. 3. 9

1) 麻黄附子細辛湯 6g 六君子湯 3g 竜胆瀉肝湯 1.5g 当帰飲子 4g 附子 3g

2) 麦門冬湯 3g 茄葉甘草湯 3g

H19. 3. 20 喘息は3/11より内服をし始め、フルタイド・セレベントなしでいけるようになった。たまに短い咳をすると、痰がからみ、痰を出すと治まる。朝起きると、手の指も足もパンパンで、水が足の方へ降りて行っているような気がする。→下肢浮腫(±)が(+)になった。便秘はしていない。元気になり、今や子供と一緒に走れる。

舌質淡、胖大、苔薄白。脈有力。

麻黄附子細辛湯 6g 六君子湯 5g 竜胆瀉肝湯 1.5g 茵陳五苓散 1.5g 当帰飲子 3g 附子 3g